

エネルギー科学研究科

- I 教育の水準 教育 21-2
- II 質の向上度 教育 21-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- グローバル化を促進するため、留学希望者が来日することなく受験し、英語だけで履修と学位取得が可能な国際エネルギー科学コースを平成 22 年度に設置している。第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に、修士課程 32 名、博士後期課程 11 名の留学生を受け入れている。
- 平成 27 年度には、授業アンケート、修了予定者アンケート、修了生アンケート、関係者アンケートを実施し、その結果を教育の改善にフィードバックする体制を整備している。毎年度、教育研究委員会が実施する修了予定者アンケートでは、その結果を自己点検・評価報告書で公表するとともに教員にフィードバックして教育改善に努めている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学外研究プロジェクトでは、企業や外部機関が実施するインターンシップに参加した際、一定条件の下に単位を認定しており、平成 26 年度の単位修得者は 21 名となっている。
- 平成 26 年度から AUN（ASEAN University Network）加盟大学とともに、「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築」によるダブルディグリープログラムを実施している。
- 学生の科目履修時の利便性を図るとともに自学自習を促す取組として、平成 27 年度から全科目において標準シラバスモデルに沿ったシラバスを学修要覧に掲載し、教育研究委員会によるチェック体制を整備している。また、平成 27 年度から科目履修数の上限を設けるキャップ制を導入し、授業時間外学習の促進と単位の実質化に努めている。

以上の状況等及びエネルギー科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における標準修業年限内の修了率は、修士課程で平均89.0%、博士後期課程で平均29.6%となっている。
- 第2期中期目標期間における学生の論文発表数については、修士課程は平均22.5件、博士後期課程は平均65.7件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における修了生の進路状況は、修士課程では平均7.8%が進学し、就職希望者に対する就職率は平均95.6%となっており、主に化学・材料・非鉄業、自動車・輸送機器業、電力・ガス業等の企業に就職している。博士後期課程では、平均87.6%が就職している。

以上の状況等及びエネルギー科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 教育のグローバル化に対応するため、平成 22 年度から国際エネルギー科学コースを設置するとともに 2 名の外国人教員を雇用し、留学生を受け入れている。IDP (International Doctoral Program) を除く留学生数は、平成 21 年度の 21 名（修士課程 11 名、博士後期課程 10 名）から平成 27 年度の 48 名（修士課程 20 名、博士後期課程 28 名）となっている。
- 平成 27 年度から標準シラバスモデルに沿ったシラバスの学修要覧への掲載とチェック体制の整備、キャップ制の導入等により、科目履修時の利便性を図るとともに自学自習を促している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間における学生の論文発表数については、修士課程は平均 22.5 件、博士後期課程は平均 65.7 件となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。